

公開シンポジウム「熊本地震・緊急報告会」の開催について

1. 主 催：日本学術会議、防災減災・災害復興に関する学術連携委員会
(予定)

2. 共 催：防災学術連携体

3. 後 援：なし (予定)

4. 日 時：平成 28 年 5 月 2 日 (月) 12:30～17:30

5. 場 所：日本学術会議 講堂

6. 分科会等：なし

7. 開催趣旨：

日本学術会議防災減災・災害復興に関する学術連携委員会は、防災学術連携体（平成 28 年 1 月 9 日に発足した防災減災・災害復興に関する 50 学会のネットワーク）と連携して、2016 年 4 月 14 日に発生した熊本地震への対応を進めています。このたび、日本学術会議と防災学術連携体に所属する学会から、異なる分野の専門家が集まり、この地震に関する正確な情報を発信すると共に、関係者間で情報共有をはかり学際連携を進めるために、緊急報告会を開催する。

8. 次 第：(予定)

12:30 開会

日本学術会議会長挨拶

大西 隆*（日本学術会議第三部会員、豊橋技術科学大学学長）

日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会委員長挨拶

和田 章*（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

行政関係者挨拶 (予定)

発表（発表 10 分＋グループ質疑 14 分） (予定)

① 熊本地震について

地震学会、活断層学会（調整中）

② 地震に関する情報について

地球惑星科学連合、地理学会、地理情報システム学会（調整中）

③ 被災状況と対策について

日本自然災害学会、土木学会、建築学会、地震工学会（調整中）

④ 土砂災害・水害と対策について

気象学会、地盤工学会、日本地すべり学会、砂防学会、応用地質学会、地質学会（調整中）

⑤ 避難・救助・救援について

地域安全学会、集団災害医学会、災害看護学会、救急医学会（調整中）

⑥ 復旧・復興について

計画行政学会、廃棄物資源循環学会、災害復興学会（調整中）

閉会挨拶

廣瀬 典昭（防災学術連携体代表幹事）

17：30 閉会

（*印の登壇者は、主催委員会委員）

公開シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議
ー化学におけるグローバリゼーションー」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議化学委員会、分子科学研究所、日本化学会戦略企画委員会
2. 日 時：平成28年5月13日（金） 13：00～18：00
3. 場 所： 岡崎コンファレンスセンター
4. 分科会の開催：開催予定

5. 開催趣旨：

本会議は、上記のとおり、日本学術会議化学委員会、分子化学研究所、および日本化学会戦略企画委員会の合同開催会議として開催し、化学分野における種々の重要課題を取り上げて議論し、報告、提言をしてきた。今回は、日本のあらゆる分野で対応が必須となっているグローバリゼーションについて、特に、化学分野の視点を中心として、課題、取組み、および展望について議論する機会を設ける。大学、研究所、企業において推進の中心的役割を果たしておられる方々に講演いただき、情報の共有と交換をするとともに、参加者全員で議論することにより、グローバリゼーションに関する今後の対策や方向性を探る。

6. 次 第：

【プログラム】

- | | | |
|----|-------------|--|
| 挨拶 | 13:00-13:05 | <u>川合 眞紀*</u> （日本学術会議第三部会員、分子科学研究所所長） |
| 報告 | 13:05-13:15 | <u>高原 淳*</u> （日本学術会議第三部会員、九州大学先端物質科学研究所所長・主幹教授） |
| 講演 | 13:30-13:50 | 山本 尚（日本化学会戦略企画委員会委員長）
「分子科学発 分子技術着」 |
| | 13:50-14:20 | 斎藤 清機（岡山大学名誉教授）
「スタンフォード大学の学士教育における“General Education Requirements”の意義」 |
| | 14:20-14:50 | 林 和弘（文部科学省科学技術政策研究所上席研究官）
「化学における情報のグローバリゼーション」 |
| | 14:50-15:20 | <u>藤田 照典*</u> （日本学術会議第三部会員、三井化学(株)シニアリサーチャー）
「フランス発 シンガポール着」 |
| | 15:20-15:40 | 休憩 |
| | 15:40-16:10 | <u>大野 英男</u> （日本学術会議第三部会員、東北大学電気通 |

信研究所所長・教授)

「大学のグローバル化 -東北大学の取り組みを中心に-

16:10-16:40 山内 薫 (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理
学系研究科教授)

「英語での学部教育」

16:40-17:10 有賀 哲也 (京都大学副学長)

「京都大学教養・共通教育の改革～『英語による教育』の
取り組みを中心に」

17:10-17:40 橋本 和仁* (NIMS理事長、東京大学大学院工学系
研究科教授)

「物質材料研究機構における取り組み」

17:40-18:00 総合討議

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催委員会委員)

市民公開講座「見る、聞く、味わう、におう」ことの喜び、大切さ」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会感覚器分科会
2. 共 催：一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会、日本眼科学会
3. 日 時：平成 28 年 5 月 21 日（土）16:30～18:30
4. 場 所：名古屋国際会議場
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：市民に感覚器（障害）の大切さ（問題）を知ってもらうため、「見る、聞く、味わう、におう」ことの喜び、大切さ」のテーマでの市民公開講座を開催する。
7. 次 第：
16:30 開会挨拶
伊藤 壽一*（日本学術会議連携会員、滋賀県立成病センター研究所長）
16:35 加齢と眼の疾患 近藤 峰生（三重大学眼科教授）
17:00 加齢と聞こえ
伊藤 壽一*（日本学術会議連携会員、滋賀県立成病センター研究所長）
17:25－17:35 （ 休憩 ）
17:35 味覚障害の治療 任 智美（兵庫医大耳鼻咽喉科講師）
18:00 「におう」喜び 三輪 高喜（金沢医大耳鼻咽喉科教授）
18:25 閉会の辞
石橋 達朗*（日本学術会議連携会員、九州大学眼科教授）
8. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催委員会委員)

公開シンポジウム「平成 28 年度 日本歯学系学会協議会シンポジウム
『歯科における先進医療の現状と展望』」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 歯学委員会
2. 共 催：日本歯学系学会協議会
3. 日 時：平成 28 年 6 月 2 日（木）14：30～16：30
4. 場 所：昭和大学旗の台キャンパス 4 号館 302 号室（東京都品川区）
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨

先進医療は、新しい医療技術開発や患者ニーズの多様化等に対応するため、新たに開発された高度な医療技術の患者適用について、保険導入の前段階として保険制度との併用を認める評価療養です。この先進医療の申請は医科に比べ歯科では圧倒的に少ないといわれ、平成 28 年 2 月 1 日現在で厚生労働大臣が承認した先進医療技術は全部で 117 種類ありますが、歯科における先進医療はわずかに 3 種類の医療技術のみです。

昨今、世界に類をみない少子超高齢化が進み、社会構造や生活環境の変化により歯科疾病構造と歯科医療の提供は大きく変わろうとしています。患者ニーズの多様化に対応するための最新の医療技術の開発は急務であるといえます。そこで、本シンポジウムは、歯科における先進医療の現状と課題を分析し、今後の展望に繋げるための議論の場となることを目的に企画いたしました。

7. 次第

1) 開会挨拶

古谷野 潔*（日本学術会議第二部会員、九州大学大学院歯学研究院教授）

宮崎 隆*（日本学術会議連携会員、日本歯学系学会協議会理事長、昭和大学歯学部長・歯科理工学教室教授）

2) シンポジウム

座長：木村 博人（日本歯学系学会協議会常任理事、弘前医療福祉大学保健学部医療技術学科教授）

今井 裕（日本歯学系学会協議会常任理事、獨協医科大学医学部特任教授）

14：35～15：15

「先進医療の仕組みについて」

赤川 安正先生（日本学術会議前連携会員、奥羽大学学長）

15 : 20～15 : 40

「先進としての『X線CT. 画像診断と手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術』
須田 英明先生（東京医科歯科大学名誉教授）

15 : 40～16 : 00

「先進としての『有床義歯補綴治療における総合的咬合・咀嚼機能検査』
志賀 博先生（日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座教授）

16 : 10～16 : 30 総合討論

3) 閉会挨拶

朝田 芳信*（日本学術会議連携会員、日本歯学系学会協議会副理事長、
鶴見大学歯学部小児歯科学講座教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催委員会委員）

公開シンポジウム「民主主義—その議論を呼ぶ現在と不確実な未来（仮題）
The Contentious Present and Uncertain Future of Democracy」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会比較政治分科会
2. 共 催：科学研究費補助金基盤研究（A）「成長、危機、民主主義—政策
レジーム転換と社会的連合の政治経済分析」研究代表：眞柄秀子
3. 後 援：（調整中）
4. 日 時：平成28年6月3日（金）13：45～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：最も民主的な社会であると思われてきた欧州で現在、民主主義
は危機に瀕しているのか。欧州政治経済研究において最も有力な研究者である
フィリップ・シュミッター（EUI名誉教授）、ブルーノ・アマブル（パリ
第一大学教授）、ラズロ・ブルスト（EUI教授）の最先端の研究報告を通じ
て財政危機、テロ、世代間対立に揺れる先進社会の現在と未来を問う。
8. 次 第：
13：45 総合司会
眞柄秀子*（日本学術会議連携会員、早稲田大学政治学研究科教授）
13：50 歓迎の言葉
河田潤一*（日本学術会議第一部会員、神戸学院大学法学部教授）
14：00 海外ゲスト報告
Philippe Schmitter (European University Institute)
"The Contentious Present and Uncertain Future of
'Real-Existing' Democracy"

Bruno Amable (University of Paris 1)
"Structural crisis and institutional change in modern
capitalism, French capitalism in transition"

Laszlo Bruszt (European University Institute)
"Integrating Markets – Fragmenting Politics: Backsliding of
Democracy in the New Member States of the European Union"

15：30－15：45 （ 休憩 ）

15：45 討論

新川敏光*（日本学術会議連携会員、京都大学法学研究科教授）

小川有美*（日本学術会議連携会員、立教大学法学部教授）

羽場久美子*（日本学術会議第一部会員、青山学院大学大学院国際
政治経済学研究科教授）

16：30 全体討論

17：00 閉会

9．関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「活力ある超高齢社会を展望する」の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会老化分科会
2. 共 催：一般社団法人 日本老年医学会
3. 後 援：無
4. 日 時：平成 28 年 6 月 9 日（木）8:30～11:00
5. 場 所：石川県金沢市 石川県立音楽堂
6. 分科会の開催：なし
7. 開催趣旨：今期の老化分科会の活動の一環として標記シンポジウムを開催し、今後のわが国に訪れようとしている超高齢社会の問題点を的確に把握し、それを解決する方策を検討する。委員会メンバーはすべて医療系であるため、問題を包括的に検討するために、委員以外の学界、官界での識者の参加を必要とする。
8. 次 第：
 - 8:30 超高齢社会の進展と医療の未来像
尾形裕也（東京大学政策ビジョン研究センター特任教授）
 - 8:50 一億総活躍社会の支え手としての高齢者の役割
飯島勝矢（東京大学高齢社会総合研究機構准教授）
 - 9:10 健康長寿社会達成のためのプラットフォームの構築
久野譜也（筑波大学大学院人間科学総合研究科教授）
 - 9:30 超高齢社会を活性化する産業の育成
江崎禎英（経済産業省ヘルスケア産業課課長）
 - 9:50 活力ある超高齢社会構築のための学術団体の役割—日本老年医学会から
楽木宏実*（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院医学研究科教授）
 - 10:00 活力ある超高齢社会構築のための学術団体の役割—日本学術会議から
大内尉義*（日本学術会議連携会員、国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長）
 - 10:10 総合討論
司会：大島伸一*（日本学術会議第二部会員、国立長寿医療研究センター名誉総長）
大内尉義*（日本学術会議連携会員、国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長）
 - 11:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催委員会委員)

公開シンポジウム「18歳・19歳有権者は選択する 前編・彼らはいかに選択するか」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会政治過程分科会、平成24～28年度文部科学省科学研究費補助金特別推進「政権交代期における政治意識の全国的時系列的調査研究」、明治大学特定課題研究ユニット政治制度研究センター
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成28年6月18日（土）14時00分～16時30分
5. 場 所：明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー1階1011教室
6. 分科会の開催：あり

7. 開催趣旨：

7月にも予定されている参院選で、18歳・19歳有権者がはじめて投票する。それに先だって、当シンポジウムでは急転直下有権者年齢が引き下げられた経緯を確認するとともに、18歳・19歳有権者の政治意識を分析する。さらには、18歳・19歳有権者の声を聞いて、彼らを投票所へと誘いたい。なお、当シンポジウムを「前編」と称しているのは、12月に「後編・彼らはいかに選択したか」を当分科会として計画しているためである。

8. 次 第：

第1部 基調報告

報告者と報告タイトル：

西川 伸一*（日本学術会議第一部会員、明治大学政治経済学部教授）

「18歳への選挙権年齢の引き下げはいかに決まったか」

小林 良彰*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）

「若年層の政治意識と模擬投票の効果」

討論者：中谷 美穂*（日本学術会議連携会員、明治学院大学法学部准教授）

司会者：名取 良太*（日本学術会議連携会員、関西大学法学部教授）

第2部 ラウンドテーブル「18歳・19歳有権者はかく選択する」

発言者：石上 泰州*（日本学術会議連携会員、平成国際大学法学部教授）

谷口 尚子*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科准教授）

18歳・19歳の高校生・大学生2名ずつ

司会者：河野 武司*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「電気エネルギー・制御システムにおけるセキュリティを考
える」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会

2. 後 援：一般社団法人電気学会、公益社団法人計測自動制御学会

3. 日 時：平成 28 年 6 月 24 日(金) 13:30～16:45

4. 場 所：日本学術会議講堂 外 1 室

5. 分科会の開催：開催予定あり

6. 開催趣旨：社会の発展とともに、電気エネルギー・制御システムは巨大化・複雑化してきたが、一方でそのセキュリティについては、災害対応などはされてきたものの、広域災害や人工的災害、反社会的行動等に対するセキュリティーマネジメントについては必ずしも十分検討してきてとは言えない。そこで、現在の電気エネルギー・制御システムに適合し、将来の安全安心スマート社会を実現するためのセキュリティーマネジメントのあり方についてシンポジウムを通じ検討を進める。

7. 次 第：

司会 日高邦彦* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授)

13：30－13：35 開会の挨拶

保立和夫 (日本学術会議第三部会員、東京大学理事・副学長・大学院工学系研究科教授) (予定)

13：35－13：45

電気学会「電気システムセキュリティ特別技術委員会」の活動概要

栗原郁夫 (一般財団法人電力中央研究所システム技術研究所所長)

13：45－14：25

安全・安心社会の電気エネルギー

餘利野直人 (広島大学大学院工学研究科教授)

14：25－15：05

社会インフラを支える Cyber Physical Systems のセキュリティ動向

泉井良夫 (三菱電機株式会社エネルギーソリューション開発プロジェクトグループマネージャー) または 芹澤善積 (一般財団法人電力中央研究所システム技術研究所 通信システム領域 領域リーダー)

15：05－15：20 （ 休憩 ）

15：20－16：00 制御系セキュリティ

新 誠一（日本学術会議連携会員、電気通信大学情報理工学研究科
知能機械工学専攻教授）

16：00－16：40 スマートメータセキュリティ

本多 敏（慶應義塾大学理工学部教授） 予定

16：40－16：45 閉会の挨拶

大西公平*（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学理工学部教授）

16：45 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「ケアサイエンスとは何か、その必要性を議論する」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 健康・生活科学委員会 看護学分科会
2. 共 催：日本看護系学会協議会
3. 日 時：平成 28 年 7 月 23 日(土)15:00-18:00
4. 場 所：お茶の水女子大学共通講義棟 2 号館 102 室
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：看護学分科会は、日本看護系学会協議会(看護系学会の集合体)とともに多くのシンポジウム開催を積み重ねてきた。平成 26 年 3 月 1 日「ケアサイエンスの必要性和看護の役割」について日本学術会議講堂でシンポジウムを開催し、看護学、植物環境学、臨床哲学という学際的な議論を通し、ケアサイエンスが今後人々の健康や生活にどのように貢献しうるのかについて議論した。今回のシンポジウムは「ケアサイエンスとは何か、その必要性を議論する」と題し、さらに深く「ケアサイエンス」について考え、既存の学問領域を超えた新たな学問として「ケアサイエンス」を捉え、「ケアサイエンス」の必要性和可能性を多角的な視点から議論する。

シンポジストとして、広井良典氏には公共政策、科学哲学の視点から本質的かつ俯瞰的に、上野千鶴子氏には当事者学の視点から、西村ユミ氏には看護学、現象学の視点から、いずれもケアに造詣の深いシンポジストそれぞれに「ケアサイエンス」をどのように考えるかを論じて頂く。さらに会場での議論を活発に行い、「ケアサイエンス」のあり方を検討し、提案していきたい。

7. 次 第：

座長 太田喜久子* (日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学看護医療学部教授)

南裕子* (日本学術会議連携会員、高知県立大学学長)

15:00-15:10 挨拶

片田範子* (日本学術会議第二部会員、日本看護系学会協議会会長、兵庫県立大学研究科長)

15:10-15:40 「公共政策、科学哲学の視点からみたケアサイエンス」
広井良典 (京都大学こころの未来研究センター教授)

15:40-16:10 「当事者学の視点からみたケアサイエンス」
上野千鶴子 (日本学術会議連携会員、立命館大学大学院特別
招聘教授)

- 16:10－16:40 「看護学、現象学の視点からみたケアサイエンス」、
西村ユミ*（日本学術会議特任連携会員、首都大学東京健康福
祉学部教授）
- 16:40－16:50 休憩
- 16:50－17:50 討議
- 17:50－18:00 まとめ、閉会

8. 関係各部の承認有無：第二部承認

（*印の登壇者は主催分科会委員）

公開シンポジウム「『18歳選挙』の政治学」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会

2. 共 催：日本政治学会

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成28年10月2日（日）9時30分～11時30分

5. 場 所：立命館大学茨木キャンパス

6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：平成27年6月17日、改正公職選挙法が成立し、選挙権が18歳以上になり、新たに約240万人が有権者に加わることとなった。彼らは衆院選や参院選のほか、地方自治体の首長と議会の選挙にも参加し、地域の身近な問題に選挙過程を通じて大きな影響を与えることも可能となった。

本企画は、「『18歳選挙』の政治学」と題して、公民・市民、国際比較、地域の各観点から問題を提起し、併せて高等学校の新教科となる「公共」を考えていくにあたっての意見交換の場としたい。

各報告のテーマと要旨は、以下の通りである。

(1) 「『市民』と『公民』のあいだ（仮題）」

西洋の citizenship の概念は、日本の政治思想史においていかなる形で翻訳され、受容されたのか。「市民」「公民」の用語法を探るところから検討をはじめ、その現代的な変容について探る。

(2) 「欧州のネット選挙と若者の右傾化傾向——EU 各国の事例から」

世界ではネット選挙運動が解禁されている主要国もあり、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツなどは程度の差はあれネットでの選挙活動が行われている。ハンガリーではインターネット民主党という政党ができ、今や FIDESZ や JOBBIK という右派的傾向の中でかすんではいるが、直接民主制をとって、一般市民が既成政党の批判やネット選挙での政党支持率を投票によって示したりしている。日本においても18歳選挙権が開始され、ネットの評価は「ネトウヨ」的な見解が強い中、今後若者を選挙に動員するために、ネットをいかに有効に活用するか、その問題点は何かを、欧州の事例分析を通じて考える。

(3) 「地域・自治・まちづくりと若者たち」

現状は、25歳以下は地域、まちづくりに極めて関心が薄い。ただ、子ども議会などで提案された「街灯づけ」や「カーブ減らし」運動などに、市側が予算をつけ、若者の政治参加を奨励している地域もある。18歳選挙で新たな「若者の未来委員会」が各地にできる可能性があるそれらを含め、地域の政治参加と若者たちの現状と可能性を探る。

8. 次 第（予定）

司 会：杉田 敦*（日本学術会議第一部会員、法政大学法学部教授）

趣旨説明：河田 潤一*（日本学術会議第一部会員、神戸学院大学法学部教授）

報 告：

・荻部 直*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授）
「『市民』と『公民』のあいだ（仮題）」

・羽場 久美子*（日本学術会議第一部会員、青山学院大学大学院国際政治学研究科教授）
「欧州のネット選挙と若者の右傾化傾向——EU 各国の事例から」

・佐々木 信夫*（日本学術会議第一部会員、中央大学大学院経済学研究科教授）
「地域・自治・まちづくりと若者たち」

・コメント：古城 佳子*（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

西川 伸一*（日本学術会議第一部会員、明治大学政治経済学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「裁判員の判断を左右するもの」の開催について

1. 主催：日本学術会議心理学・教育学委員会法と心理学分科会

2. 共催：日本心理学会，法と心理学会

3. 日時・場所：

第一回

平成 28 年 11 月 13 日（日） 13 時 30 分～17 時 00 分 北海道大学

第二回

平成 28 年 12 月 11 日（日） 13 時 30 分～17 時 00 分 慶應義塾大学

4. 分科会の開催 開催予定なし

5. 開催趣旨

裁判員による裁判が始まって 7 年が経とうとしている。この間、心理学者らによる裁判員の判断に関する研究の成果もなされるようになっており、成果も蓄積されつつある。裁判員の判断は、さまざまな社会的・認知的な要因により左右されてしまう可能性があり、その結果、裁判の結果が不適切な影響を受けてしまうかもしれない。

本シンポジウムでは、社会心理学的あるいは認知心理学的な見地から裁判員の判断に影響を与えると考えられる諸要因について実証的に検討を行っている心理学研究者に研究成果や裁判員制度に対する意義について論じていただく。その上で、現在の裁判員制度の問題点を探り、制度やその運用をよりよいものにするためにはどうすればよいのかについて、また裁判員の心理を研究することが人間の理解に何をもたらすのかについて、参加者と共に考えたい。

6. 次第

13：30 趣旨説明

伊東裕司（慶應義塾大学文学部教授）

13：40 「裁判イメージ・裁判規範の認知が判断をどう変えるのか：社会的認知からの検討」（仮題）

唐沢かおり（日本学術会議連携会員、東京大学人文社会系研究科教授）

14：20 「裁判員の情報処理スタイルが目撃証言の信用性判断に及ぼす影響」（仮題）

名畑康之（北海道大学大学院文学研究科学術研究員）

15：00 休憩

15：20 「裁判員の事実認定に影響を及ぼす要因とそのメカニズム」（仮題）

松尾加代（慶應義塾大学先端研究センター研究員）

16：00 「裁判官の影響—死刑評議実験からの考察—」（仮題）

綿村英一郎（東京大学大学院人文社会系研究科助教）

16：40 指定討論・ディスカッション

箱田裕司*（日本学術会議第一部会員、京都女子大学発達教育学部教授）

仲真紀子*（日本学術会議第一部会員、北海道大学大学院文学研究科教授）

17：20 閉会の辞

伊東裕司（慶應義塾大学文学部教授）

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者等は、主催分科会委員）